

～10月27日から11月9日は読書週間です～  
**図書館へ行こう**



市立図書館では、親しみやすく便利な図書館を目指して、さまざまなサービスを実施しています。主なサービスを紹介しますので、図書館で「新たな発見」をしてみませんか。

いわき市立図書館  
 キャラクター「かもまる」

○お問い合わせ  
 総合図書館  
 ☎22-5552

**使って便利！データベース**



新聞や雑誌の記事を検索したり、百科事典や各種辞書が一度に検索できるデータベースを11

種類取りそろえた専用端末を、5階のビジネス支援コーナーに設置しています。いずれのデータベースも操作は簡単ですので、ぜひご利用ください。

**図書館見学**



秋は、遠足や学校行事で、たくさん子どもたちが図書館見学に訪れます。

利用方法の説明や質問タイムなど、図書館への理解を深める良い機会となっています。一般の団体による視察も受け付けていますので、詳しくはお問い合わせください。

**よみきかせひろばへどうぞ**

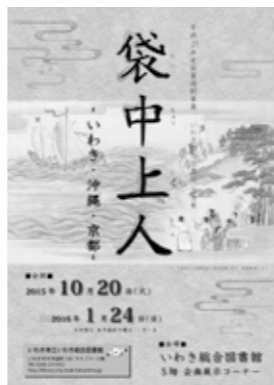


4階子どもフロアの「よみきかせひろば」では、お子さんと保護者の方が、絵本や紙芝居などを声に出して読むことができます。好きな絵本を手にとって、ゆったりと過ごしてみたいですか。

**「読書週間企画展」などを開催**

①企画展「袋中上人 -いわき・沖縄・京都-」

▶とき 10月20日(火)～来年1月24日(日)  
 ▶内容 現在の常磐西郷町に生まれ、江戸時代に琉球（現在の沖縄）で仏教を広めた袋中上人の紹介パネルや、図書館所蔵資料を展示



②企画展記念講演会

「袋中上人 -いわき・沖縄・京都、その生涯の軌跡-」

▶とき 11月7日(土) 14時～15時30分  
 ▶講師 夏井芳徳（総合図書館長）  
 ▶対象/募集定員 中学生以上の方/50人（先着順）

③第2回図書館くらしのセミナー「薬の正しい飲み方・使い方」

▶とき 11月6日(金) 13時30分～14時40分  
 ▶講師 吉川真一（いわき明星大学薬学部准教授）  
 ▶対象/募集定員 高校生を除く18歳以上の方/40人（先着順）



○案内 (②③共通)

▶申込方法 10月14日(水)10時から市内図書館窓口か総合図書館に☎で

**市民のひろば** ～明るく元気な いわき市を目指して～

**レポート** ⑳

今月号は、いわき産の農水産物の風評払拭や地域の活性化を目的に活動している「NPO法人ミッション」理事長の渡辺香さんに、具体的な取り組みや、今年、初めての試みとして行われた田んぼアートについて、インタビューした内容をお伝えします。

Q 団体を設立した経緯について聞かせてください。  
 もともとは、東日本大震災以来、風評被害を受けているいわき産の農水産物の消費を増やしたいと思い、いわき産のコメを使った煎餅作りを始めたのがきっかけです。  
 煎餅作りが軌道に乗ってきたころ、他にも、コメや水田を利用して地域の活力になるような活動をしたと考え、団体を設立しました。平成二十五年三月十一日に活動の拠点となる事務所を開設し、九月から本格的に活動を始めました。  
 Q どのような活動をされていますか。  
 煎餅作りを中心に活動しています。煎餅は、地元の魚屋から仕入れたメヒカリや、いわき産のエゴマなど、地元の産品を使ってコメに味を付け、



渡辺香さん（NPO法人ミッション理事長）



子どもも多く参加した田植え作業（6月7日）

一枚ずつ手作りしています。現在は、市内や広野町のほか、インターネットでも販売しています。  
 また、憩いの場をつくらうと、休耕地を有効活用し、ヒマワリやレンゲなど、花の栽培を行っています。今年も、新たに休耕地を利用して、田んぼアートを作成しました。  
 Q 田んぼアートとはどのようなものですか。  
 田んぼアートとは、色の異なる稲を使い、水田に巨大な絵を描くものです。市民の皆さんの心の癒やしになればと考え、磐城農業高等学校の先生や生徒たちと一緒に作成しました。田んぼアートのデザインは、生徒たちが考えてくれたものです。  
 六月には、生徒たちや測量会社のボランティアの協力の下、田植えを



田んぼアート（7月13日撮影）とデザインの原因（左上）

行いました。当日は、小さいお子さんから高齢者の方まで、約六十人の参加があり、皆さん楽しんで田植えをしていました。  
 今回は、台風などの影響で稲が倒れ、鑑賞できなくなってしまうという見込みでしたが、来年は多くの皆さんに見てもらえるよう、再度挑戦したいです。  
 Q 今後の目標・抱負をお聞かせください。  
 いわきの復興・心の復興に役立てるよう、こうした活動を通して、いわき産の農水産物に関心を持ってもらい、風評払拭につなげていきたいです。  
 また、休耕地を活用し、地域の方々とさまざまな活動を行うことで、人々の交流や地域の活性化を、より一層図っていききたいです。